

富士見市協働事業提案制度 令和6年度提案状況報告について（複数回提案分）

①傾聴ボランティア養成研修

提案者	傾聴ボランティア「やまぶき」
市担当部署	高齢者福祉課
事業の目的 (要約)	少子高齢化や人間関係の希薄化による高齢者の社会的孤立を解消するコミュニケーションツールのひとつとして、事業実施により市民へ傾聴の知識を提供し、お互いの声掛けや気配りにより、誰もが安心して住み慣れた地域に住み続けられる街づくりを目指す。
事業の内容	傾聴ボランティア養成研修の開催（年2回）
提案回数	2回目

②こども対話カフェ(こども対象哲学カフェ)事業

提案者	対話カフェつむぎ
市担当部署	教育相談室
事業の目的 (要約)	不登校状態にある児童や生徒が、学校現場や地域で、自らの思いや考え、生きづらさ等を主体的に言葉にすることのできる「対話の場」を創出するとともに、子どもの権利・人権についての理解を深め、互いの抱える多様性や違いを認め合い、互いの思いや考えを大切に聞きあうことができるための「対話の方法」を身につける機会「対話カフェ」の実施。
事業の内容	①子どもを対象とした、参加体験型の「こども対話カフェ」（「こども哲学」の形を取った対話の場）を年3回開催。開催実績を踏まえ、より多くの参加者に参加してもらうためカフェプログラムの充実、テーマや開催場所の選定、広報の工夫を行い参加者増につなげていく。 ②地域または家庭での子どもたちの対話の機会を創出するため、参加型の「ファシリテーター入門講座」を年2回開催。事業実施により親子間のコミュニケーションの円滑化につながり、家庭内での子どもの居場所を創出または強化する。また、保護者・地域に「こども対話カフェ」の周知や紹介を行い、体験してもらうことで、対話カフェの参加者増加につなげていく。
提案回数	3回目

③世界が広がる！学校では教えてくれない授業

提案者	富士見三芳稲門会
市担当部署	文化・スポーツ振興課
事業の目的 (要約)	市民の学びの機会の充実と国際理解の促進を目的に、地域住民が持つ知識・経験・人脈等を活用し、国際理解につながる多様な学びの機会を子どもたちに提供する。
事業の内容	令和6年度実施時にアンケートで要望が多かった「古代」「生物」「科学」というキーワードに沿ったテーマを新たに選択し、団体の人材ネットワークから福井県立恐竜博物館研究員の関谷透氏を招聘し、海外をフィールドに多国籍チームで行う恐竜研究の魅力や、科学分野において国際的な視野を持つことの大切さを通じ、将来を担う子どもたちに、科学への興味や国際的な視野を備えることの大切さについて考える機会を提供する「世界が広がる！学校では教えてくれない授業」を開催する。 【今回のテーマ選定について】 1. 恐竜研究の国際的な協力 恐竜の化石は世界各地で発見されており、その研究には国境を越えた協力が不可欠です。例えば、中国では多くの新種の恐竜が発見されており、日本を含む世界中の研究者が共同で研究を行っています。このような国際的な協力の事例を知ること、科学分野における国際連携の重要性を理解できます。 2. 地球規模の視点を持つ 恐竜は一つの国に限定されるものではなく、かつて世界中に生息していました。その生態や進化を学ぶことで、地球の歴史や環境の変化について広い視野を持つことができます。また、恐竜の絶滅などの話題は、気候変動や生態系の保全といった現代の地球規模の課題とも関連し、国際的な視点を持つことの重要性を実感できます。 3. 異文化理解と科学の発展 講師が過去に化石の発掘に従事していた中国は、恐竜化石の発掘において世界的に重要な地域の一つです。中国での発掘経験を持つ研究者の講演を通じて、中国の研究環境や科学技術の発展について学ぶことができます。さらに、中国の歴史や文化が恐竜研究に与えた影響などを知ること、科学を通じた異文化理解を深めることができます。 4. 国際的な視野を持つ人材の育成 恐竜研究を通じて、国籍や言語の違いを超えて協力することの大切さを学ぶことは、将来の国際社会で活躍するための重要な素養となります。特に若い世代にとって、科学をきっかけに他国の文化や考え方に触れることは、国際理解を深める貴重な経験になります。
提案回数	3回目

